



平成 21 年 10 月 9 日

各 位

会 社 名 大 幸 薬 品 株 式 会 社
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 柴 田 仁
 (コード番号：4574 東証第二部)
 問 合 せ 先 常 務 取 締 役 吉 川 友 貞
 (TEL. 06-6382-1135)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 21 年 7 月 31 日に公表した業績予想を下記の通り修正致しましたのでお知らせ致します。

記

(単位：百万円)

平成 22 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間（平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日）

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 四半期純利益 | 1 株当たり四半期純利益 (※1) |
|-----------------------|-------|-------|-------|--------|-------------------|
| 前回発表予想 (A) | 4,136 | 1,191 | 1,212 | 810 | 63.55 |
| 今回発表予想 (B) | 5,060 | 1,798 | 1,797 | 1,168 | 91.61 |
| 増減額 (B - A) | 923 | 606 | 585 | 357 | |
| 増減率 (%) | 22.3 | 50.9 | 48.3 | 44.1 | |
| (ご参考)前期第 2 四半期実績 (※2) | — | — | — | — | — |

平成 22 年 3 月期連結会計年度（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1 株当たり当期純利益 (※1) |
|-------------|-------|-------|-------|-------|------------------|
| 前回発表予想 (A) | 7,643 | 1,495 | 1,515 | 907 | 71.14 |
| 今回発表予想 (B) | 9,653 | 2,998 | 2,995 | 1,799 | 141.03 |
| 増減額 (B - A) | 2,009 | 1,502 | 1,479 | 891 | |
| 増減率 (%) | 26.3 | 100.5 | 97.6 | 98.2 | |
| (ご参考)前期実績 | 6,094 | 894 | 843 | 470 | 110.72 |

事業の種類別連結売上高（平成 22 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間）

| | 医薬品事業 | 感染管理事業 | その他事業 | 売上高合計 |
|-----------------------|-------|--------|-------|-------|
| 前回発表予想 (A) | 2,436 | 1,674 | 25 | 4,136 |
| 今回発表予想 (B) | 2,525 | 2,513 | 21 | 5,060 |
| 増減額 (B - A) | 88 | 839 | △4 | 923 |
| 増減率 (%) | 3.6 | 50.2 | △17.9 | 22.3 |
| (ご参考)前期第 2 四半期実績 (※2) | — | — | — | — |

事業の種類別連結売上高（平成 22 年 3 月期連結会計年度）

| | 医薬品事業 | 感染管理事業 | その他事業 | 売上高合計 |
|-----------|-------|--------|-------|-------|
| 前回発表予想（A） | 4,758 | 2,843 | 41 | 7,643 |
| 今回発表予想（B） | 4,759 | 4,857 | 36 | 9,653 |
| 増減額（B－A） | 1 | 2,014 | △5 | 2,009 |
| 増減率（％） | 0.0 | 70.8 | △13.8 | 26.3 |
| （ご参考）前期実績 | 4,887 | 1,167 | 38 | 6,094 |

修正の理由

1. 今回発表予想の概要

当第 2 四半期連結累計期間（以下、上期）及び当連結会計年度（以下、通期）における連結業績予想を上記のとおり修正致します。今回の修正においては、引続き感染管理事業の飛躍的な成長を見込み、同事業の通期の売上高が、基幹事業である医薬品事業をも上回る見通しとなったことから、通期の連結売上高を前連結会計年度（以下、前期）と比較し、3,559 百万円増（58.4%増）となる過去最高の 9,653 百万円と予想しております。

一方、費用面については、特に下期に感染管理事業の製品ブランドである「クレベリン」の認知率向上に向けた広告宣伝及び研究開発の強化を計画し、また、成長に伴う人材強化のための人件費や採用経費及び上場したことに伴う各種費用の増加等を見込むことから、通期の販売費及び一般管理費は前期に比較し、相応に増加することを見込んでおります。しかしながら概して売上高の伸びに伴うことなく、全体の費用抑制を図ることから、通期の連結営業利益は、対前期比 2,104 百万円増（235.3%増）となる 2,998 百万円と、大幅な増益を見込んでおります。また、経常利益、当期純利益も同様に増益を見込み、各利益は最高益を更新する見通しであります。

事業の種類別状況については、以下の通りであります。

医薬品事業については、7 月からの新たな TV コマーシャル放映効果等もあって主力製品『正露丸』や『セイロガン糖衣 A』を中心に堅調に推移しており、上期の売上高を 2,525 百万円、通期の売上高を 4,759 百万円と見込んでおります。海外市場における円高影響等から、通期の売上高は対前期比 2.6%の減少を見込んでおりますが、引続き国内、海外市場ともシェアの維持、獲得に注力しております。

感染管理事業については、国内における衛生対策に関する意識と製品需要が高まる中、当社衛生管理製品「クレベリン」シリーズに対する受注が、主にドラッグストアやコンビニエンスストア等から急増致しました。また、一般用の新製品として『クレベリン マスク』や『クレベリン ハンドジェル』の出荷を開始し、業務用においては可搬型の低濃度二酸化塩素ガス発生装置『リスパス S』の 3 台出荷による売上高も計上致しました。その結果、上期の感染管理事業の売上高は 2,513 百万円を見込み、下期も例年の傾向から、一層の製品需要の伸長を想定し、通期の売上高を対前期比 316.0%増となる 4,857 百万円と見込んでおります。なお、下期の感染管理事業売上高は第 3 四半期をピークとする一方、第 4 四半期は季節的に販売店側が店頭陳列商品を見直すことが予想され、衛生管理製品の受注減少と返品率の上昇を想定することから、著しく低調となることを見込んでおります。

2. 前回発表予想との比較

医薬品事業については、上期の連結売上高は対前回予想比 3.6%増となる 2,525 百万円を見込む一方、下期における中国市場向け売上高の若干の減少により、通期の売上高は、ほぼ前回予想通りとなる 4,759 百万円を見込んでおります。

また、感染管理事業については、第 2 四半期において、第 1 四半期以上に衛生対策関連製品の需要が急増したことから、当社製品に対する受注増加に一層の拍車がかかりました。その結果、上期の売上高は、対前回予想比 839 百万円増 (50.2%増) と、前回予想を大幅に上回る 2,513 百万円を見込むこととなりました。前回予想では当初見込んだ販売店側の下期の製品需要が上期へ一部前倒しとなることを想定致しましたが、その後も製品需要は増加し、結果的には下期においても主力製品であるゲル剤、液剤を中心とする新たな需要の創出が見込まれることから、下期の売上高も、前回予想を大幅に上回る見通しとなりました。前述の通り、第 4 四半期の売上高は低調となるものの、通期の売上高は、対前回予想比 2,014 百万円増 (70.8%増) となる 4,857 百万円を見込んでおります。

利益率が比較的高い一般用衛生管理製品の生産数量増加に伴う原価率の改善に加え、下期での研究開発費や採用関連費用等の増加を見込みつつも、販売費及び一般管理費全体の伸びを抑える計画としております。これらにより、上期及び通期の営業利益、経常利益及び当期（四半期）純利益についても、前回予想に比較し、大幅な増益を見込んでおります。

(※ 1) 当社は、平成 21 年 8 月 1 日付にて株式 1 株につき 3 株の株式分割を実施しており、前回（平成 21 年 7 月 31 日付）発表予想の 1 株当たり当期（四半期）純利益は、当該株式分割を反映した株式数により算出しております。また、当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行った場合、前期実績の 1 株当たり当期純利益は 36 円 91 銭となります。

(※ 2) 当社は、前期第 2 四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表を作成していないため、当該期間の実績値を記載しておりません。

なお、上記の予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上